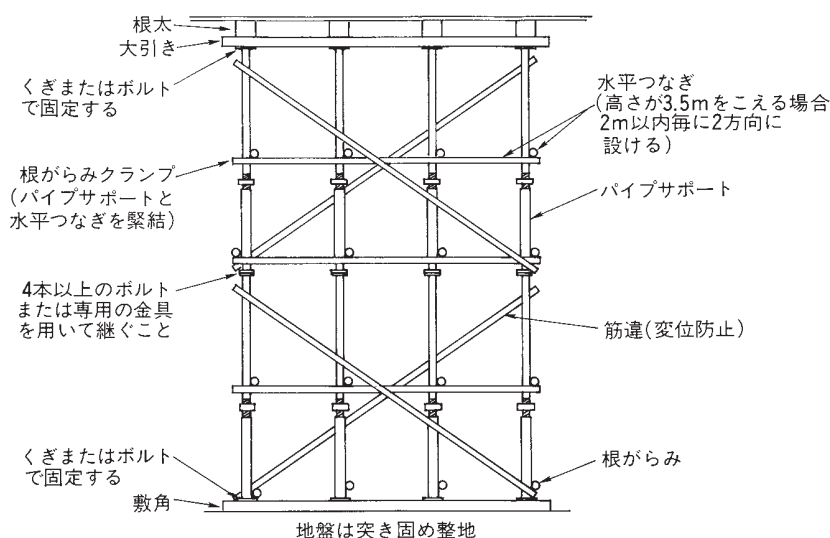


# 施工方法と注意事項 (パイプサポート)

## 組立上の注意事項

- 地盤の突固め、敷角の使用、コンクリートの打設、くいの打込みなどパイプサポートの沈下を防止するための措置を講じて下さい。
- パイプサポートの脚部の固定、根がらみの取り付けなどサポートの脚部の滑動を防止するための措置を講じて下さい。
- サポート上下の固定は受板、台板に設けられているボルト穴、くぎ穴で、くぎ等を用いて大引きおよび敷角に止めて下さい。また、一度固定しても、施工中サポートが浮いたり、移動してしまうこともあるので、コンクリートの打込み前や、打込み中に必ず点検し修正しなければなりません。
- パイプサポートは3本以上継いで用いないで下さい。(2本継ぎまでとします。)
- パイプサポート (補助サポート) を継いで用いるときは、ボルト穴の径に見合ったボルトで必ず4箇所緊結し、補助サポートの場合は確実に根元まで差し込んで下さい。
- パイプサポートの高さが3.5mをこえる場合には、次により水平つなぎを設けて下さい。
  - ①水平つなぎ材は、鋼製のものを用いて下さい。
  - ②高さ2m以内ごとに水平つなぎを2方向に設け、かつ水平つなぎの変位を防止する為、筋違を取付ける等の措置を講じて下さい。
  - ③水平つなぎとパイプサポートの緊結は、専用の緊結用具を用いて下さい。

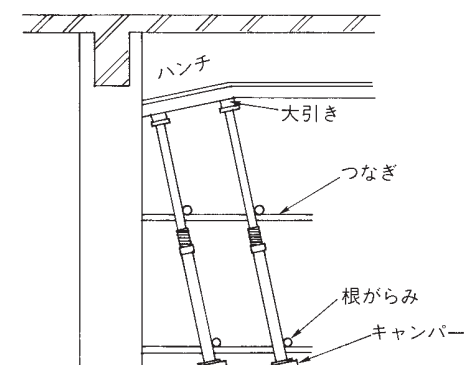


- 上下のサポートの間に敷板または大引きなどをはさんで段状に組み立てる場合は、次のような措置が必要です。
  - ①上下の各サポートはできるだけ鉛直になるように、また中心をそろえて敷板等に固定して下さい。
  - ②敷板、大引きは2段以上はさまないで下さい。(3段以上の段組みの禁止。)
  - ③敷板、大引きを継いで用いるときは、あて板を用いて連結し、かつ継手の位置はそろえないで下さい。



# 施工方法と注意事項 (パイプサポート)

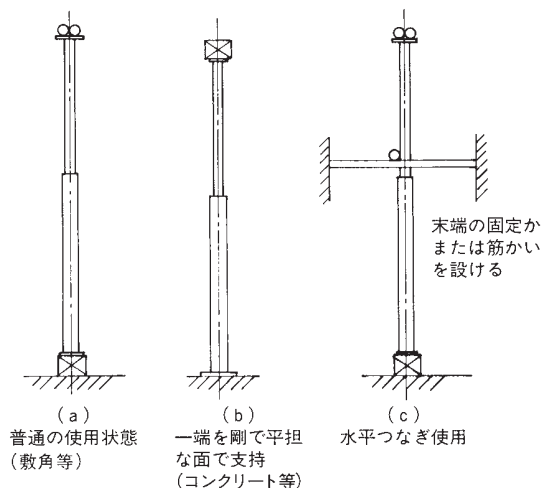
- 階段、はりのハンチなどの部分で、パイプサポートを斜めにして建て込む必要がある場合には、サポートの頭部または脚部にキャンパーを用い、かつ根がらみなどを取り付けて安定させて下さい。
- 型わくが曲面のものであるときには、控えの取付けなどを行なって、型わくの浮上りを防止するための措置を講じて下さい。
- 高さ7m以上(パイプサポートの2本継ぎをこえる長さ)の支保工を必要とする場合は、原則としてサポート1本分の高さを残して、わく組その他によって構台を組み、その上にパイプサポートを設置して下さい。



## 許容荷重

パイプサポートの許容荷重 kN(kg)

サポート 使用長 (m)	水平つなぎ無し		水平つなぎ有り
	(a) 普通の使用状態	(b) 一端を剛で平坦な面で支持	(c)
3.4	9.80(1000)	14.7(1500)	19.6(2000)
3.3	10.7(1100)	15.2(1550)	
3.2	11.7(1200)	15.6(1600)	
3.1	12.7(1300)	16.1(1650)	
3.0	13.7(1400)	16.6(1700)	
2.9	14.7(1500)	17.1(1750)	
2.8	15.6(1600)	17.6(1800)	
2.7	16.6(1700)	18.1(1850)	
2.6	17.6(1800)	8.6(1900)	
2.5	18.6(1900)	19.1(1950)	
2.4	19.6(2000)	19.6(2000)	



- 2.4m未満の使用長に対しては許容荷重19.6kN(2000kg)限度として扱う。
- 3.5m以上の使用長に対しては許容荷重19.6kN(2000kg)限度とし、高さ2m以内ごとに水平つなぎを直角2方向に設け、かつ水平つなぎの変位を防止する措置を講ずる。
- 補助サポートを使用の場合は許容荷重7.35kN(750kg)限度として扱う。水平つなぎを設けた場合は19.6kN(2000kg)。